

平成20年度採択案件（農商工等連携枠）の例

【生産量日本一のモズクを活用した特産品開発によるうるま市地域ブランド構築プロジェクト】（うるま市商工会（沖縄県））

○漁業者—漁協—商工業者—専門家の連携

沖縄県はモズクの全国シェア98%を占め、うるま市は沖縄県の中でも県内生産量の50%を占め、全国一の産地であるにもかかわらず、その認知度は低く、地域資源としての活用は限定的である。モズクは料理の食材としてもおいしく食べられ、健康食材としても注目されているが、モズク価格は下落傾向であり、燃料費の高騰など外部環境も厳しく、漁業者等は極めて危機的な経営状況にある。

地域資源∞全国展開プロジェクトに取り組むことにより、優れた地域資源であるモズクを活用した加工食品や健康食品の開発といった食材としての活用にとどまらず、美容化粧品の新商品開発に取り組むことにより、新たな市場開拓の訴求を行うとともに地域内において漁業者と商工業者が連携し、生産から加工製造・販売に至る新たな仕組みを実現し地域資源を活用した産業振興を図っていく。



うるま市の美しい海



モズク酢



モズクの加工風景

【次世代3GYO（農業・安行・商業）プロジェクト】（川口商工会議所（埼玉県））

○農業者—商工業者—大学—専門家—観光協会—行政—地域住民の連携

全国的ブランドである“安行の植木”を活用し、市街地の住宅でも楽しめるような新たな鉢物ブランドの開発やPR等を行うことにより“川口市＝緑豊かなまち”のイメージを定着させ、緑化産業と商業との連携から貴重な緑をテーマとした観光事業を全国に発信し、特産農業活性化、緑地保全および地元商業の活力増進を図っていく。



安行の植木PRイベント
（川口キュポラ広場まつり）



ベランダガーデン